
2022年 9月期 決算説明資料

2022年 11月17日
株式会社 学研ホールディングス

INDEX

2022年9月期 決算概要	…… P.04
Gakken2023 進捗	…… P.23
2023年9月期 見通し／重点施策	…… P.33
2022年9月期 決算補足資料	…… P.39

2022年 9月期決算 エグゼクティブサマリー

【通期業績】

売上高：1,560億円（前期比+3.8%） 営業利益：64.3億円（前期比 +3.0%）
経常利益：69.3億円（前期比+13.1%） 当期純利益：34.4億円（前期比+31.5%）

- ・連結売上高は13期連続増収を達成。教育分野はヒット多数の出版事業が牽引。医療福祉分野は積極的な新規開設で増収維持
- ・営業利益は8期連続増益の64.3億円で着地。教育分野、医療福祉分野で増益基調を維持したが、オミクロン株や、光熱費高騰の影響により計画対比95.9%と未達となった
- ・経常利益は69.3億円。JPHDと市進HDの持分法投資利益増加に伴い増益。計画達成
- ・当期純利益は、前期の一時的な税金増加要因の剥落も寄与し前期比30%超の大幅増益

【年間トピックス】

- ①教育分野では、オミクロン株拡大に伴う休校/休園が多発し、園・学校事業とTGG*¹、対面型塾の業績が悪化した一方、出版事業で「最強王」「学研の図鑑LIVE」「地球の歩き方」などヒット作を多数出すことで需要を獲得
幅広い世代のお客様に最適な教育コンテンツ・サービスを提供することを目的に、関連する4社を結集。本年10月1日付で（株）Gakkenを始動
- ②医療福祉分野では入居営業モデルを徹底することにより、新規開設を積極的に推進しつつ、コロナ禍においても過去最高水準の入居率を達成
高齢者住宅22(93.9%)*²/ 認知症GH 11(97.7%) /子育て支援施設3(92.1%)
「学研版地域包括ケアシステム」の複合拠点を3カ所（吹田／廿日市／川崎高津）を開設し、稼働好調
2021年10月1日付で医療福祉分野の管理部門を統合し（株）学研インテリジェンスを発足。収益力強化に貢献
- ③2022年7月、TCFD*³へ賛同を表明。サステナビリティ推進を加速

*1 体験型学習施設 TOKYO GLOBAL GATEWAYの略称

*2 ()内は入居率・充足率。以下認知症GH、子育て支援施設も同様

*3 Task force on Climate-related Financial Disclosures（気候関連財務情報開示タスクフォース）の略称

2022年 9月期 決算概要

2022年 9月期決算 連結業績サマリー

※単位未満は四捨五入です。

売上高

1,560 億円

前年同期比

3.8% ↑

介護事業の新規店積極開設で着実に増収

営業利益

64.3 億円

前年同期比

3.0% ↑

光熱費などコスト増の影響を受けながらも増益

経常利益

69.3 億円

前年同期比

13.1% ↑

JPHD、市進HDの持分法投資利益が増加

EBITDA

94.6 億円

前年同期比

4.1% ↑

償却負担増加により営業利益を上回る伸長

当期純利益

34.4 億円

前年同期比 ※

31.5% ↑

前期の一過性の税金負担増が解消し、大幅増益

※親会社株主に帰属する当期純利益

1株あたり配当金

24 円

前年同期比

+ 2 円 ↑

5期連続増配。配当性向30.5%

2022年 9月期 セグメント別業績サマリー

単位：億円

セグメント	事業	2021年9月期 実績		2022年9月期 計画		2022年9月期 実績		増減（対前期）	
		売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
教育分野		789.2	41.4	810.0	48.0	781.7	44.3	-7.5	+2.9
	教室・塾	314.9	9.3	330.0	15.0	314.4	12.7	-0.6	+3.4
	出版コンテンツ	315.3	27.9	320.0	30.0	323.7	31.7	+8.3	+3.7
	園・学校	159.0	7.5	160.0	6.0	143.6	3.0	-15.3	-4.4
	のれん	—	-3.3	—	-3.0	—	-3.1	—	+0.2
医療福祉分野		657.9	30.4	700.0	31.0	722.4	31.5	+64.5	+1.1
	高齢者住宅	274.3	12.8	310.0	14.0	323.7	14.2	+49.4	+1.4
	認知症GH	331.5	22.0	335.0	21.0	341.0	20.7	+9.5	-1.3
	子育て支援	52.1	0.3	55.0	1.0	57.6	1.2	+5.6	+0.9
	のれん	—	-4.6	—	-5.0	—	-4.6	—	±0
その他		55.8	7.4	60.0	-12.0	56.3	8.1	+0.5	+0.7
調整額		—	-16.8	—	0	—	-19.6	—	-2.8
グループ合計		1,503.0	62.4	1,570.0	67.0	1,560.3	64.3	+57.4	+1.9

※単位未満は四捨五入のため、合計値が合わない箇所があります。

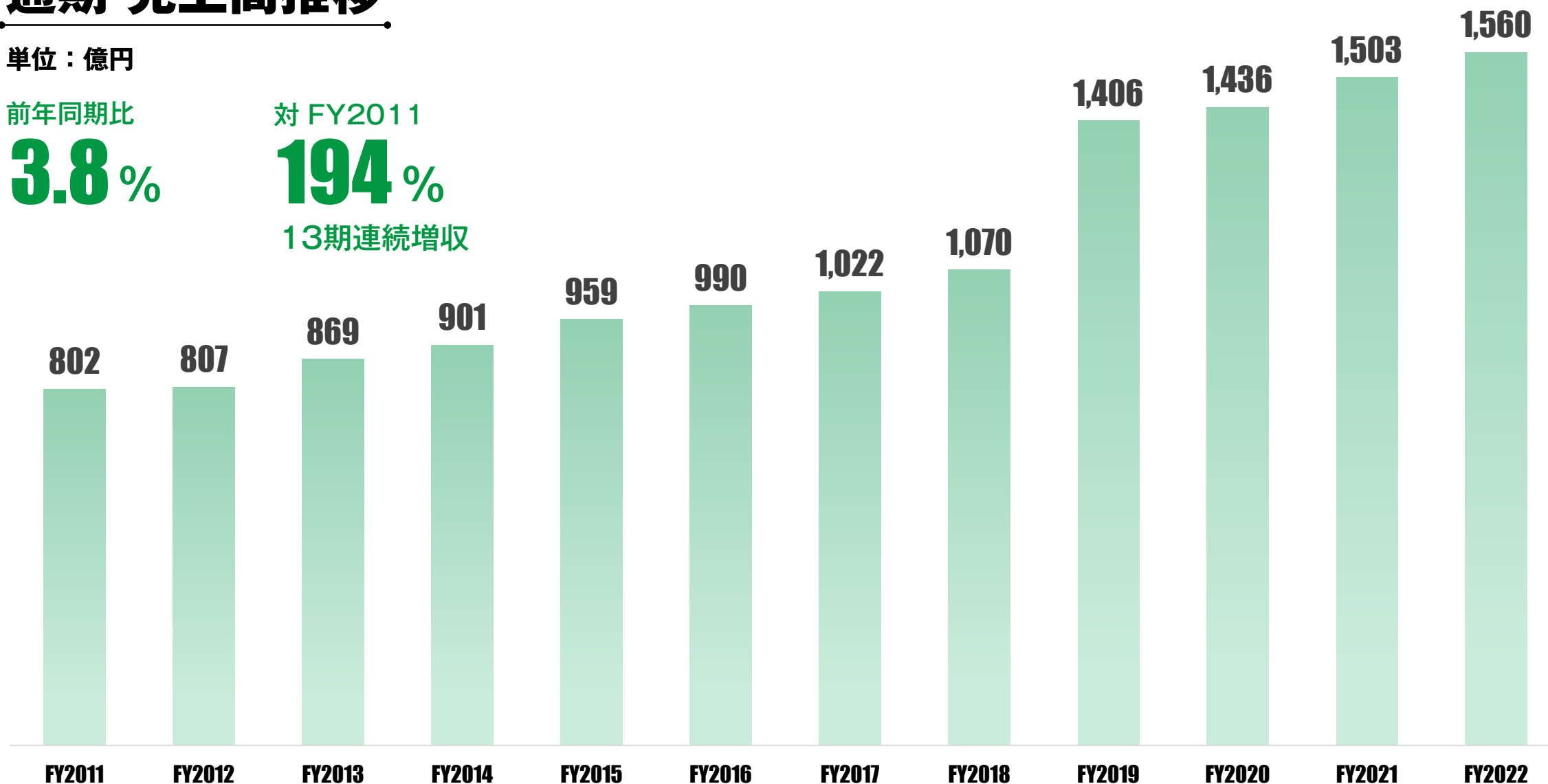
※2022年9月期より、従来「その他」に含めていた全社費用を調整額として表示しております。これに伴い21年9月期の「その他」及び調整額についても遡及して修正しています。

通期 売上高推移

単位：億円

前年同期比
3.8 %

対 FY2011
194 %
13期連続増収



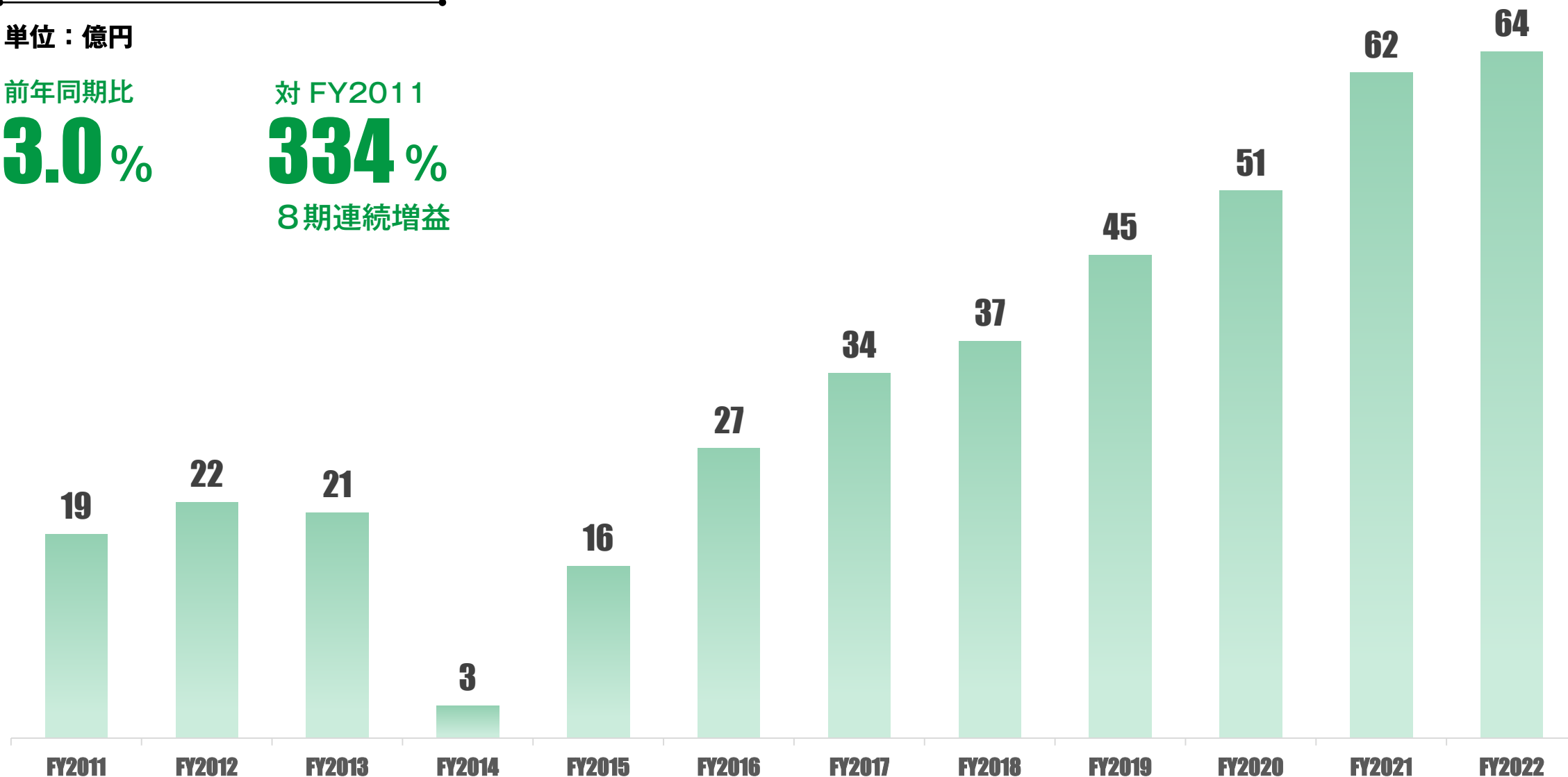
※億円未満は四捨五入です。

通期 営業利益推移

単位：億円

前年同期比
3.0%

対 FY2011
334%
8期連続増益



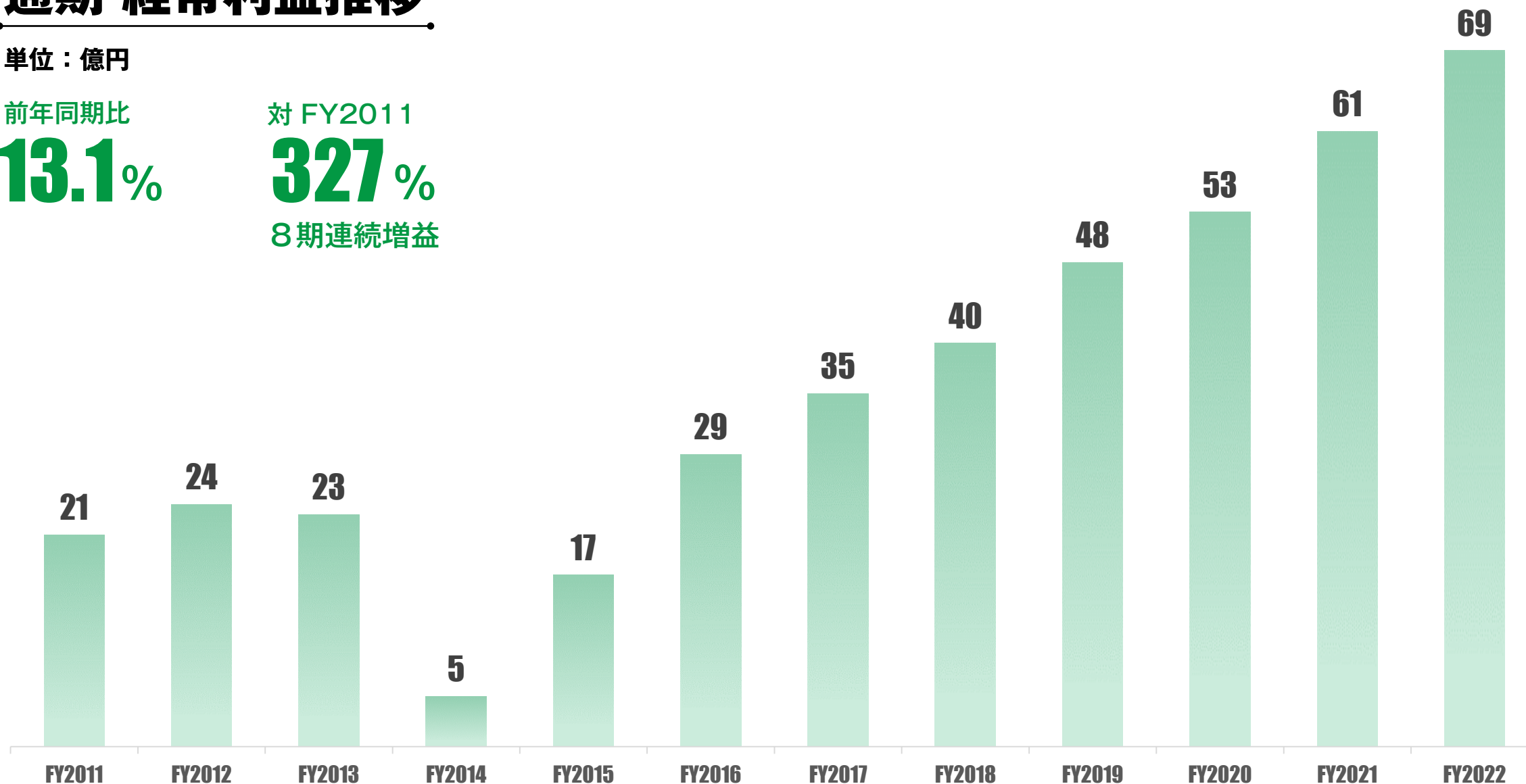
※億円未満は四捨五入です。

通期 経常利益推移

単位：億円

前年同期比
13.1%

対 FY2011
327%
8期連続増益



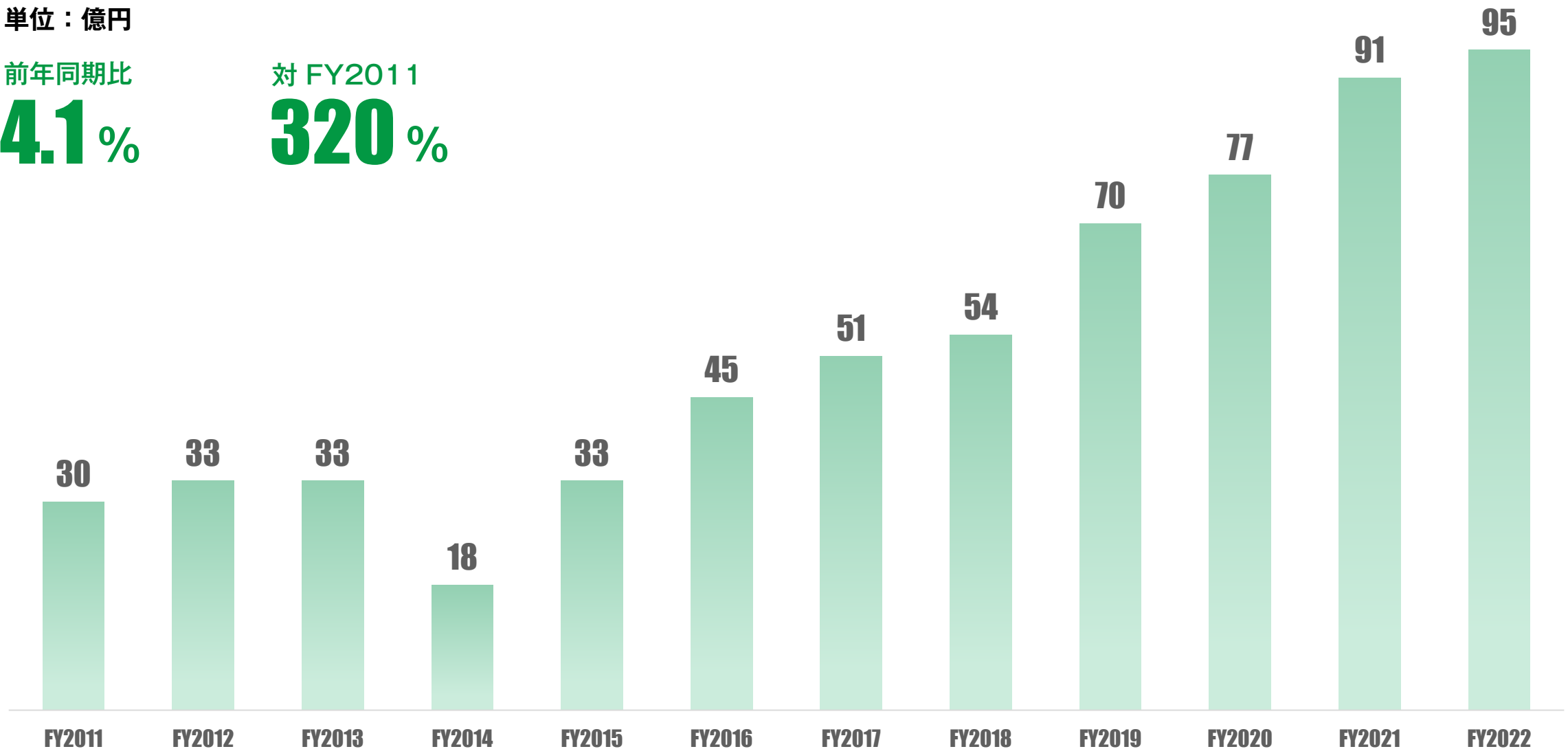
※億円未満は四捨五入です。

通期 EBITDA[※] 推移

単位：億円

前年同期比
4.1 %

対 FY2011
320 %



※営業利益・減価償却費・のれん償却費の合算です。

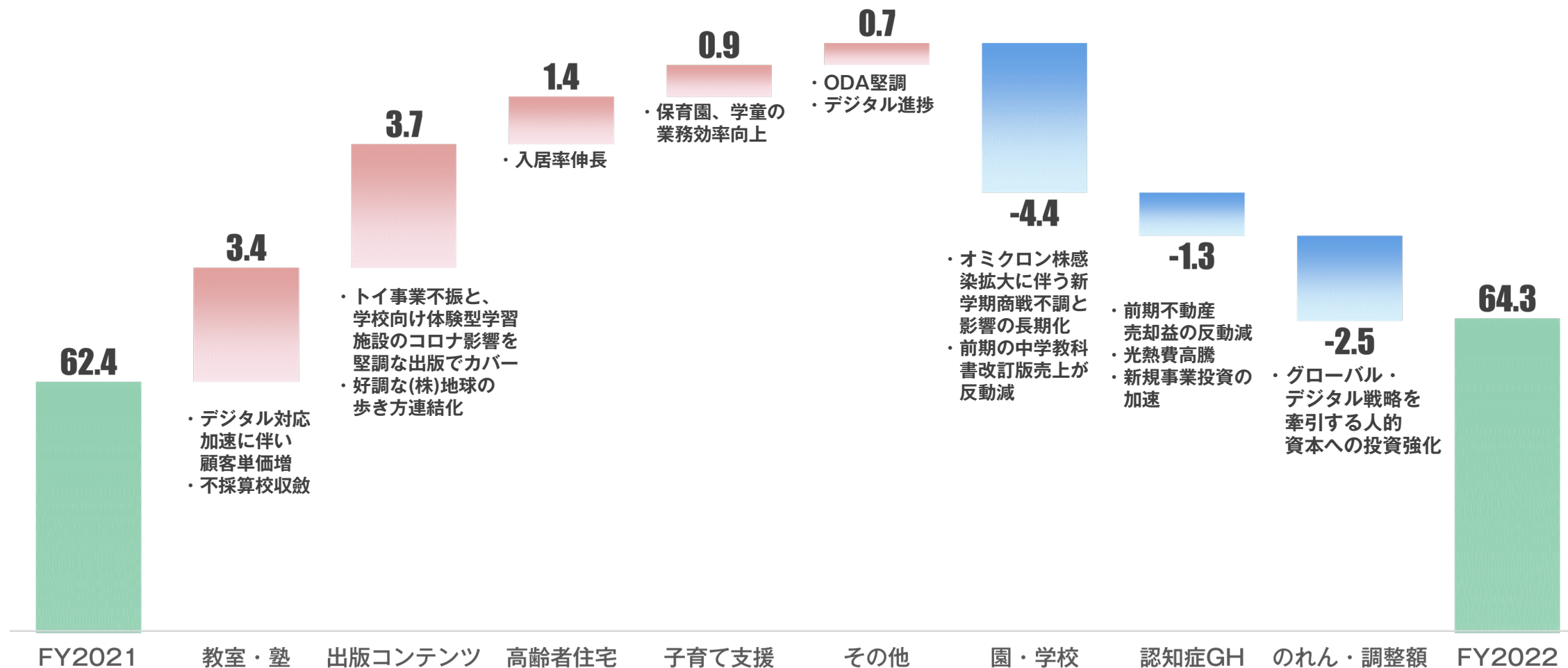
※億円未満は四捨五入です。

通期 営業利益 増減分析

単位：億円

75.0

広範囲でオミクロン株の影響を受けつつも、事業面では成長を持続

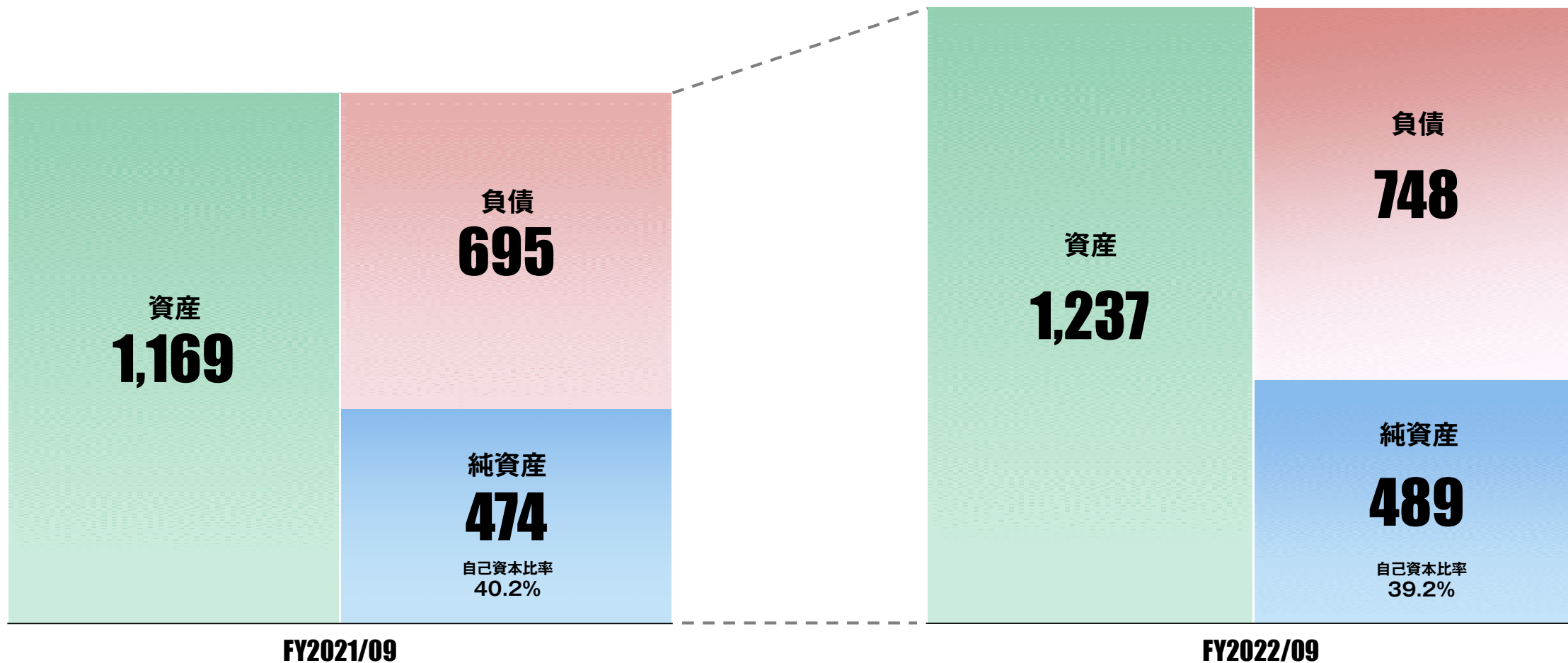


※少数点第2位未満は四捨五入です。

連結財政状態

単位：億円

売上増に伴う運転資金増加と成長投資で資産増加



※億円未満は四捨五入のため、合計値が合わない箇所があります。

教育分野

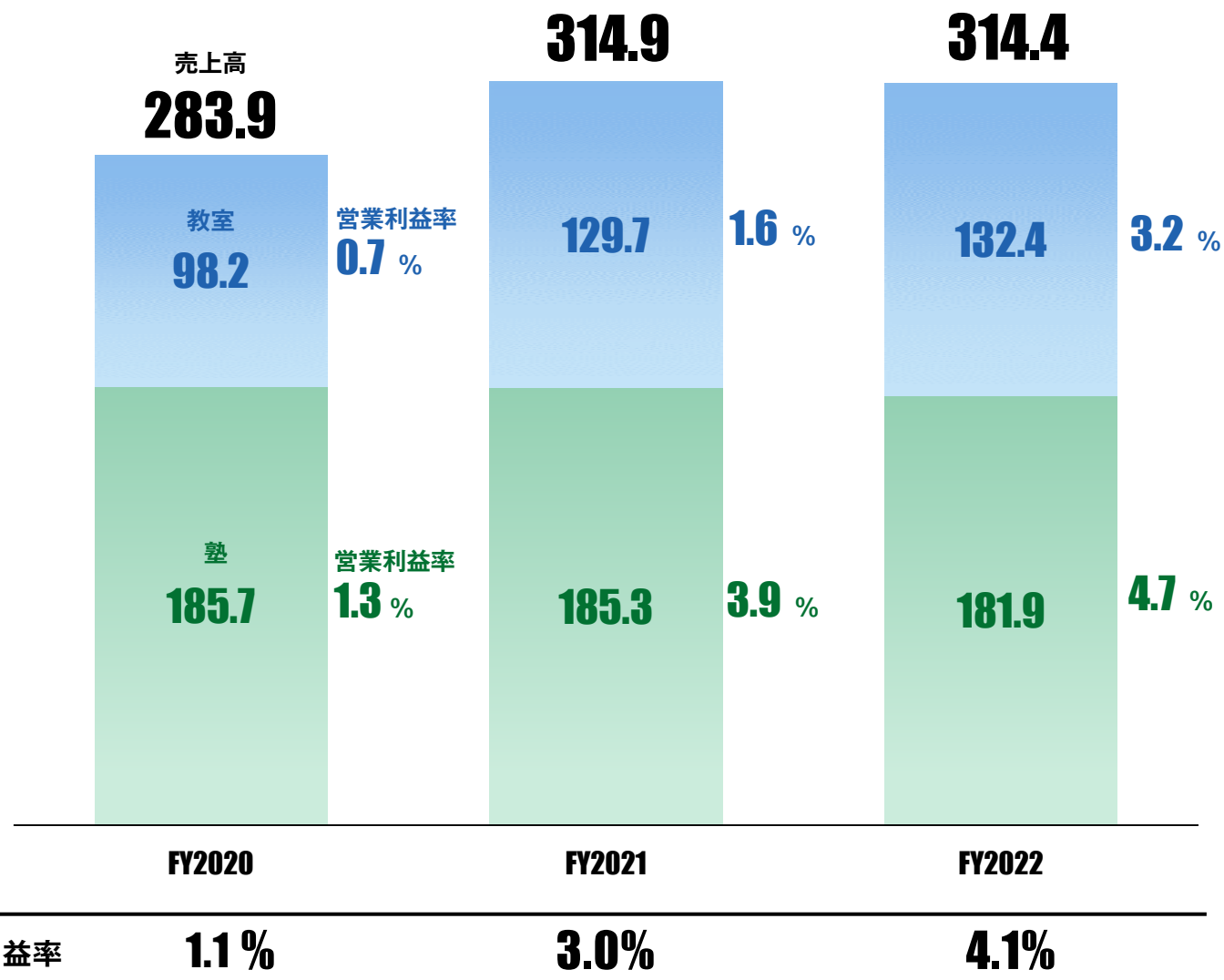
2022年9月期 決算

幅広く子どもたちの学びを支援する3事業を展開。社会人向けのサービスも拡充しています。

- 1)教室・塾事業…………… 日常学習を支援する幼児教室・学研教室に加え、各地で進学塾を運営
- 2)出版コンテンツ事業… 児童書、学習参考書等の出版物や、eラーニング等を制作・販売
- 3)園・学校事業…………… 幼保園等への物販や教科書・教材の制作・販売。就職・採用支援も展開

教室・塾事業 決算サマリー

単位：億円



ポジティブ要素

- ・ 利益率は2期連続で上昇
- ・ 不採算塾校舎の合理化推進
- ・ オンラインサービス拡充や特別講習で顧客単価が上昇
- ・ 幼児教室の社内移管（前期1Q）により幼小接続強化

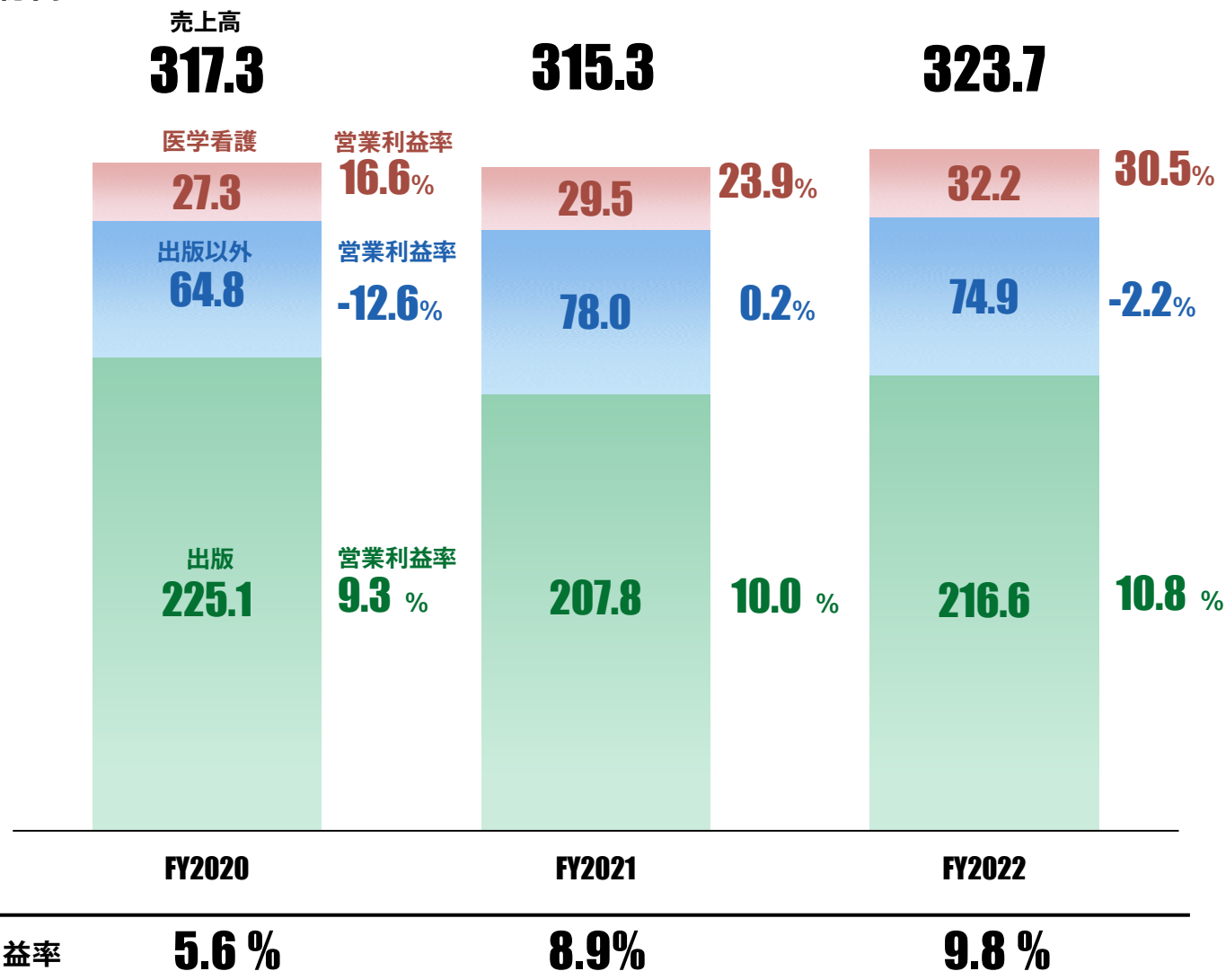
ネガティブ要素

- ・ オミクロン株の感染拡大による新学期募集への影響が長期化し会員・生徒数の回復が遅延

※少数点第2位未満は四捨五入です。

出版コンテンツ事業 決算サマリー

単位：億円



ポジティブ要素

- ・ 売上・利益率とも上昇
- ・ 図鑑を中心に児童書が好調継続
- ・ (株)地球の歩き方で複数のヒット作
- ・ 看護師向けeラーニング契約 2,351病院（前期比+285）
- ・ 医書・看護書の電子書籍伸長

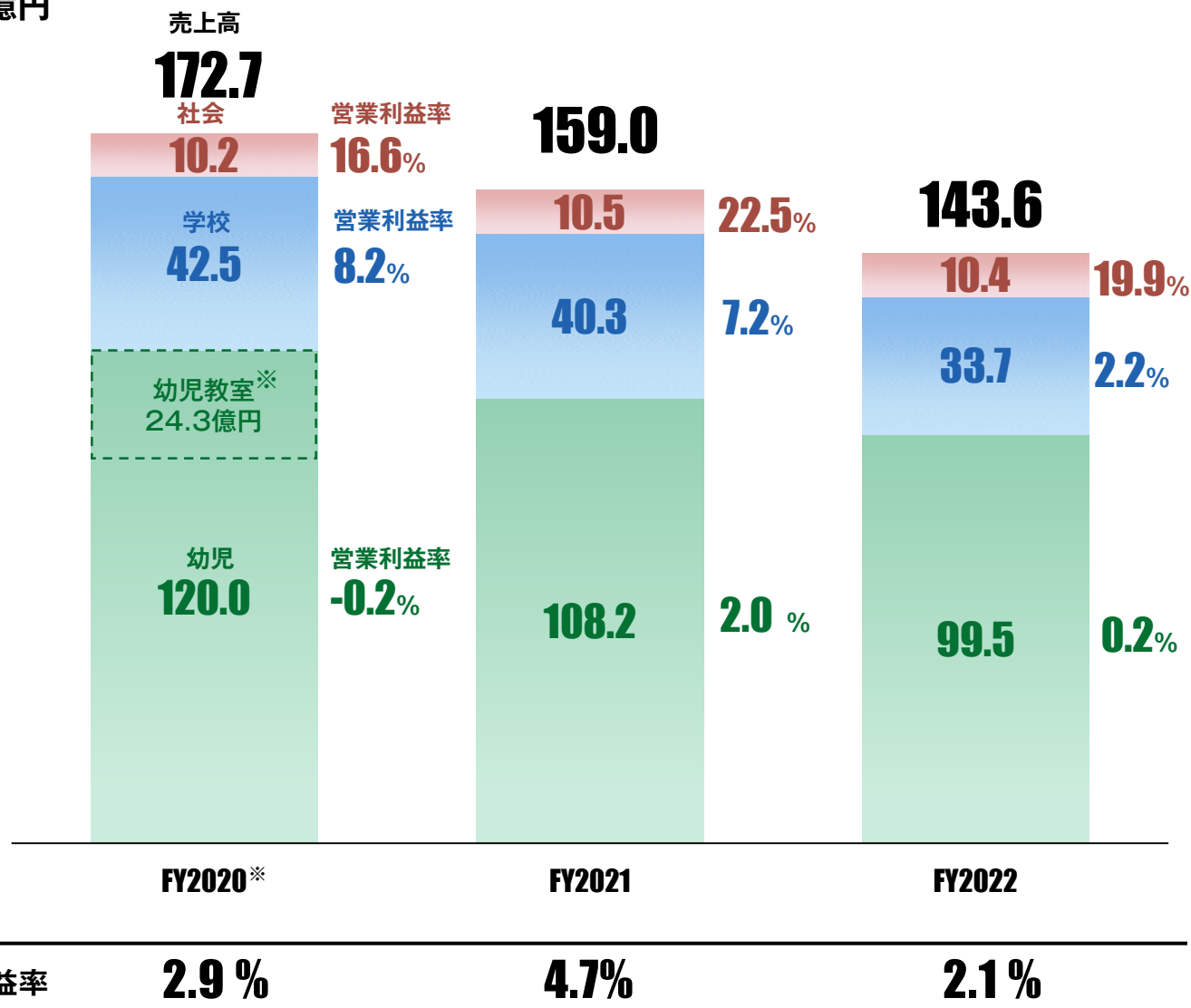
ネガティブ要素

- ・ オミクロン株影響により、体験型英語学習施設の利用・予約減
- ・ トイ市況悪化(上海ロックダウン、円安影響等)
- ・ 用紙代が高騰し、収益を圧迫

※少数点第2位未満は四捨五入です。

園・学校事業 決算サマリー

単位：億円



ポジティブ要素

- ・ (株)TOASUの企業向け研修事業が収益ともに大幅伸張
- ・ デジタル教科書、ICT教材の納入校拡大
- ・ 保育ICTシステム「ハグモー」導入園数拡大

ネガティブ要素

- ・ オミクロン株の影響による幼保園向け備品・用品受注の大幅減
- ・ FY2020、2021の学校教科書指導書の反動減
- ・ 教員免許更新制度廃止に伴う、eラーニング事業の中止

※少数点第2位未満は四捨五入です。

※FY2020の売上高には、社内移管した幼児教室事業 24.3億円 を含みます。

医療福祉分野

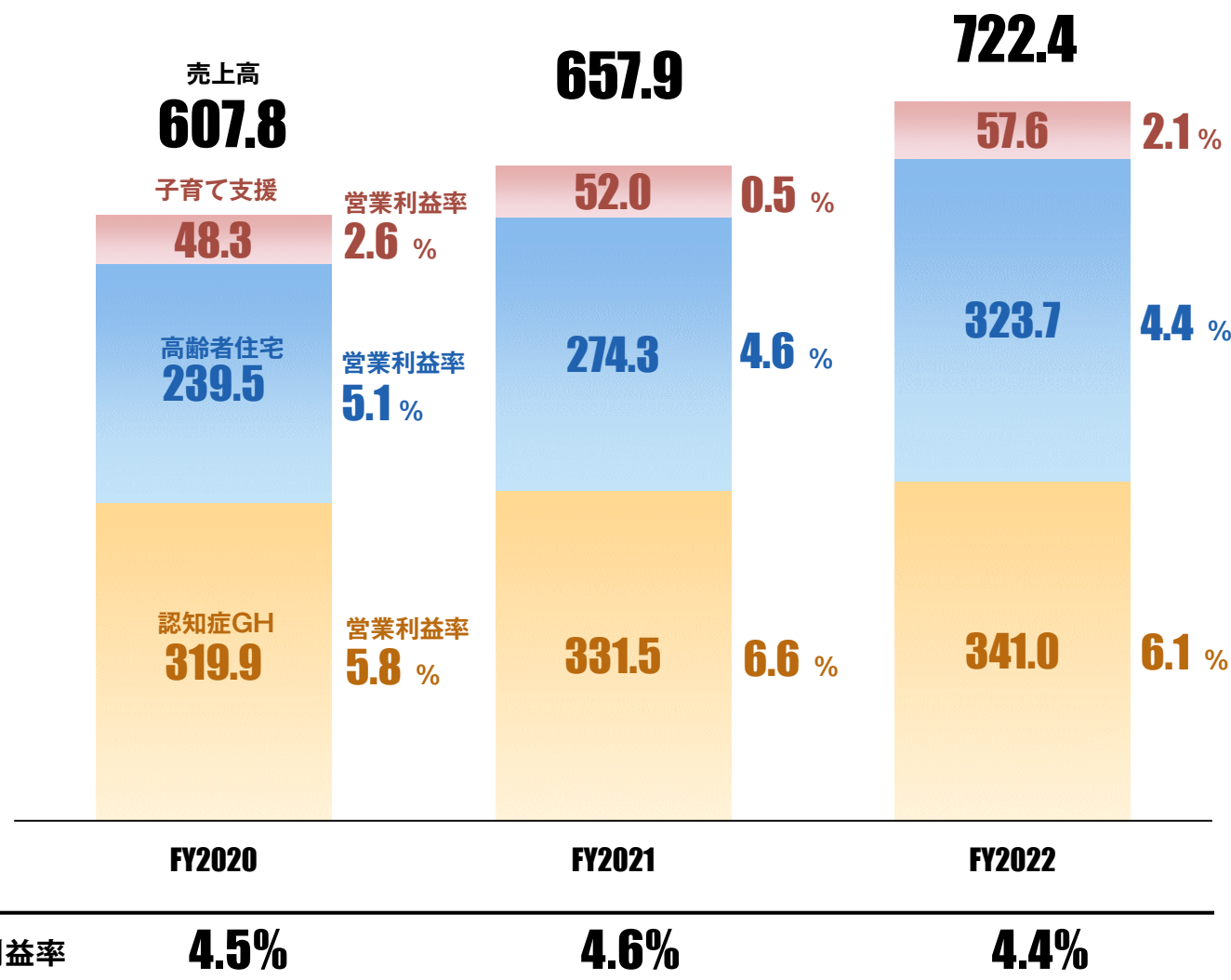
2022年9月期 決算

3つの事業で少子高齢化の社会課題に挑み、多世代が安心して暮らせる街づくりを進めます。

- 1)高齢者住宅事業 … サービス付き高齢者向け住宅、介護サービス拠点等の企画・開発・運営
- 2)認知症グループホーム事業 … グループホームの運営や、関連サービスの企画・開発・運営
- 3)子育て支援事業 … 保育園・子ども園・学童施設・児童発達支援施設等の企画・開発・運営

医療福祉事業 決算サマリー

単位：億円



ポジティブ要素

- ・新規開設順調（通期累計）
 - 高齢者住宅（21事業所22棟）
 - 認知症GH（11事業所）
- ・入居率、充足率は過去最高水準
 - 高齢者住宅 93.9%
 - 認知症GH 97.7%
 - 保育園 92.1%
- ・保育園は合理化により増益

ネガティブ要素

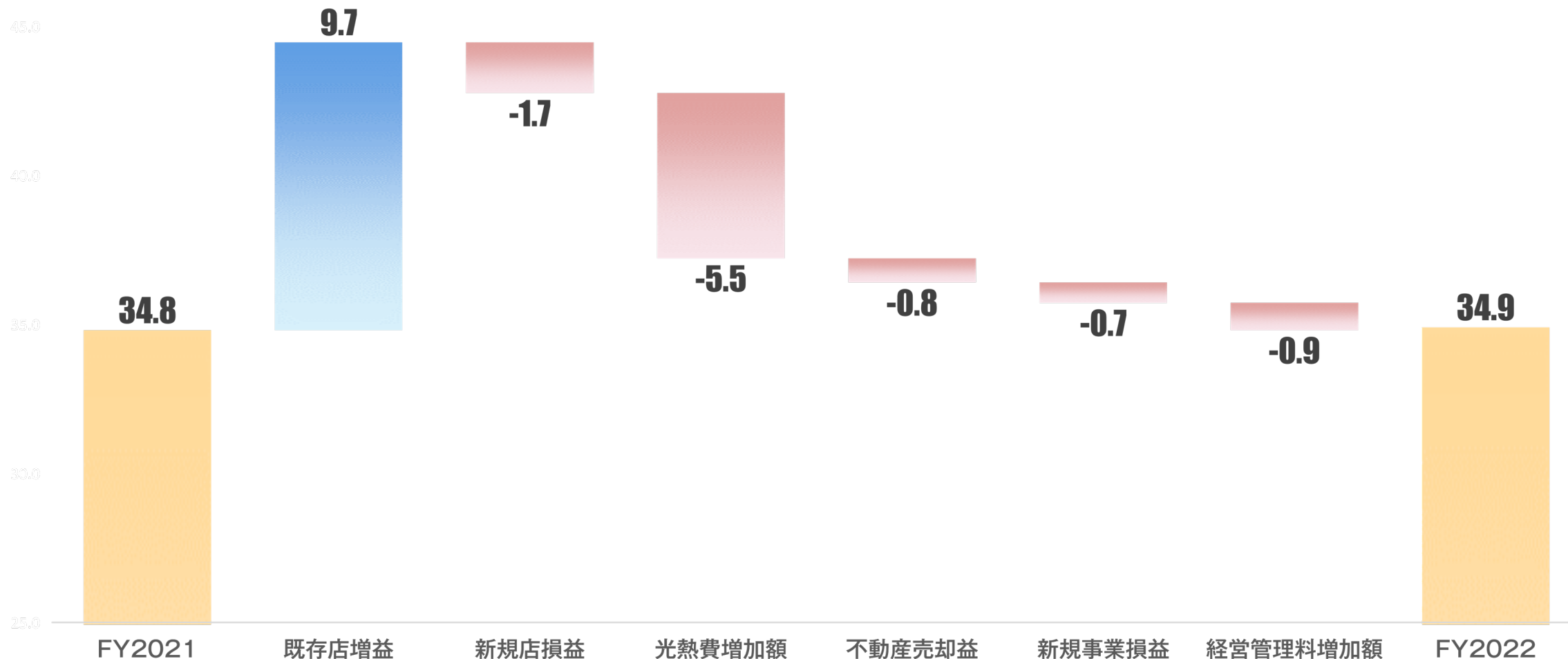
- ・認知症GH：前期2Qの不動産売却益の反動減
- ・光熱費の高騰によるコスト増（既存店比較で約5.5億円の増加）
- ・コロナ再拡大影響による通所介護の利用回復鈍化

※少数点第2位未満は四捨五入です。

高齢者住宅・認知症グループホーム 営業利益増減分析

単位：億円

高い入居率を維持する既存店で大きく増益するも、光熱費高騰が利益を下押し



※小数点第2位未満は四捨五入です。

※高齢者住宅事業と認知症GH事業の合算。子育て支援事業は含みません。

2022年 9月期 決算総括

2022年9月期 決算総括

◆売上高は13期連続の増収を達成

◆営業利益は8期連続の増益を達成。教育分野でオミクロン株や上海ロックダウンの影響が大きく計画対比では95.9%と未達となった

◆経常利益は69.3億円。JPHDと市進HDの持分法投資利益増加に伴い増益。計画達成。

◆当期純利益は、3期連続の増益を達成。

一株当たり配当金は24円。5期連続の増配。配当性向30%以上を維持

◆Gakken2023で掲げている、既存・新規事業の成長を両立するためグループ全体で不採算事業見直し・業務の合理化を推進。
それにより確保した原資をデジタル、グローバル領域や、リカレント教育など成長分野へ振り向け、継続的な投資を実行

※2020年4月1日付で普通株式1株を4株とする株式分割を行っております。FY2020の1株当たり配当額について、当該株式分割がFY2020の期首に行われたと仮定した場合の1株当たり配当額は20.00円に相当

2023年9月期 見通し

オミクロン株影響が長期化し、未だ回復途上にあることに加え、光熱費高騰や、円安に起因する原価高を考慮し、見通しを引き下げるも、増収増益は維持

単位：億円	①2023年9月期 当初計画	②2022年9月期 実績	③2023年9月期 見通し	当初計画比 ③-①	前期実績比 ③-②
売上高	1,650	1,560	1,620	-30	+60
営業利益	75.0	64.3	67.0	-8.0	+2.7
営業利益率	4.5 %	4.1 %	4.1 %	-0.4 %	±0.0 %
経常利益	-	69.3	70.0	-	+0.7
当期純利益	38.0	34.4	36.0	-2.0	+1.6
ROE	8.0 %	7.2 %	7.2 %	-0.8 %	±0.0 %
一株あたり配当金	- 円	24 円	25 円	- 円	+1 円
配当性向	30.0 %	30.5 %	30.5 %	+0.5 %	±0.0 %

※単位未満は四捨五入です。

Gakken2023

進捗報告

中期経営計画 Gakken2023

「揺るぎない成長基盤の確立」

教育

新たな学びの創造と
多様な学習機会の創出

医療福祉

トップカンパニーを目指し
持続可能な街づくりに貢献



・
・
・
**持続的な
企業価値向上**

DXの加速とグローバル展開

グループガバナンスの強化と資本コスト経営

Gakken2023 3か年の業績推移

21年9月期は売上・利益とも計画を達成

22年9月期はオミクロン株感染拡大や、光熱費高騰等の影響により売上・営業利益とも計画未達

23年9月期はコロナ再拡大や物価高に伴うコスト増などの影響を鑑み、当初の計画を修正

単位：億円

連結	2021年9月期		2022年9月期		2023年9月期		対前期 実績	対当初 計画
	計画	実績	計画	実績	当初計画	見通し		
売上高	1,460	1,503	1,570	1,560	1,650	1,620	+60	-30
営業利益	56.0	62.4	67.0	64.3	75.0	67.0	+2.7	-8.0
営業利益率	3.8%	4.2%	4.2%	4.1%	4.5%	4.1%	±0.0 %	-0.4 %
経常利益	57.0	61.3	68.0	69.3	-	70.0	+0.7	-
当期純利益	28.0	26.2	34.0	34.4	38.0	36.0	+1.6	-2.0
ROE	6.5%	6.3%	7.1%	7.2%	8.0%	7.2 %	±0.0 %	-0.8 %

※単位未満は四捨五入です。

教育分野 実績推移／当期見通し

単位：億円

		2021年9月期	2022年9月期	2023年9月期（見通し）	対前期実績
売上高		789.2	781.7	798.1	+16.4
事業別	教室・塾	314.9	314.4	316.0	+1.6
	出版コンテンツ	315.3	323.7	333.6	+9.9
	園・学校	159.0	143.6	148.5	+4.9

営業利益		41.4	44.3	49.8	+5.6
事業別	教室・塾	9.3	12.7	14.1	+1.4
	出版コンテンツ	27.9	31.7	32.6	+1.0
	園・学校	7.5	3.0	4.6	+1.6
	のれん	-3.3	-3.1	-1.5	+1.6

※小数点第2位未満は四捨五入のため、合計値が合わない箇所があります。

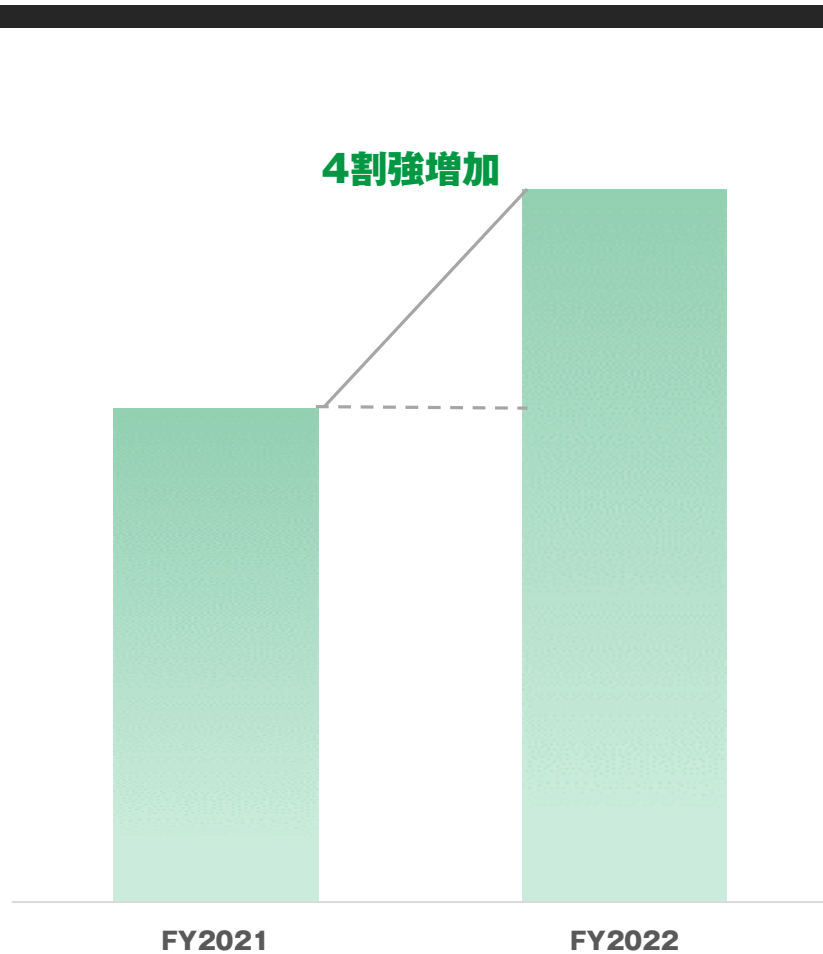
教育分野 Gakken2023の施策・取組進捗

事業	主な重点施策と期待効果	進捗
教室・塾	<p>【重点施策】新たに開かれた「双方向型オンライン」市場での優位性を確立</p> <p>【期待効果】受講者層および受講講座数増加</p>	<p>■ グループ塾のオンライン授業利用者数推移※</p> <p>教室では、ことばパークや学研教室オンラインなど、オンライン学習サービスを続々ローンチ。塾では対面型授業に追加していただくことで、お客様の「学びやすさ」を高めながら、アップセルも実現。</p>
出版コンテンツ	<p>【重点施策】社会人教育の体系化により、人生100年時代の生涯学習環境を提案</p> <p>【期待効果】6,500万人規模のリカレント(社会人)市場開拓</p>	<p>■ 看護師eラーニング契約病院数</p> <p>主力商材は、看護師eラーニング事業。契約病院数は順調な成長を継続。今後はコンテンツ拡充とターゲット拡大により、さらなる飛躍を目指す。</p>
園・学校	<p>【重点施策】園現場と家庭を繋ぎ、幼児教育の質向上に寄与</p> <p>【期待効果】生活や行動に寄り添い、一貫性ある学びを提供</p>	<p>■ ハグモ導入園数</p> <p>21年6月に事業譲受した保育ICTシステム「ハグモ」が中核商材。園現場の業務効率化や、保護者とのコミュニケーションをサポート。新規導入園は順調に増加。</p>

※Gakken ONAIR 利用者数と各塾のオンラインサービス併用者数の合算

教育分野 Gakken2023の施策・取組進捗

デジタル関連 売上成長率



※連結対象外のグループ会社を含む当社管理数値による比較
 ※新たにグループインした事業会社は、当該月より加算

幼児から社会人まで、幅広い世代の学びを支援するサービスが続々！

～ FY2020

学研プライムゼミ

kimini
学研のオンライン英会話

学研ナシングサポート

ニューコース
学習システム

ニューワイド
学習百科事典

デジタル
ナーシングメソッド

Gakken
【電子書籍】

G-PAPILS
自立型個別学習

GDLS

FY2021～

マナミル

hugmo

FY2022～

Gakken
ON AIR

ことばパーク

学びTimes

MetaLife

学研教室
読む力・考える力——伸びる学力
幼児/算数・数学・国語/英語
※ 学研教室オンライン

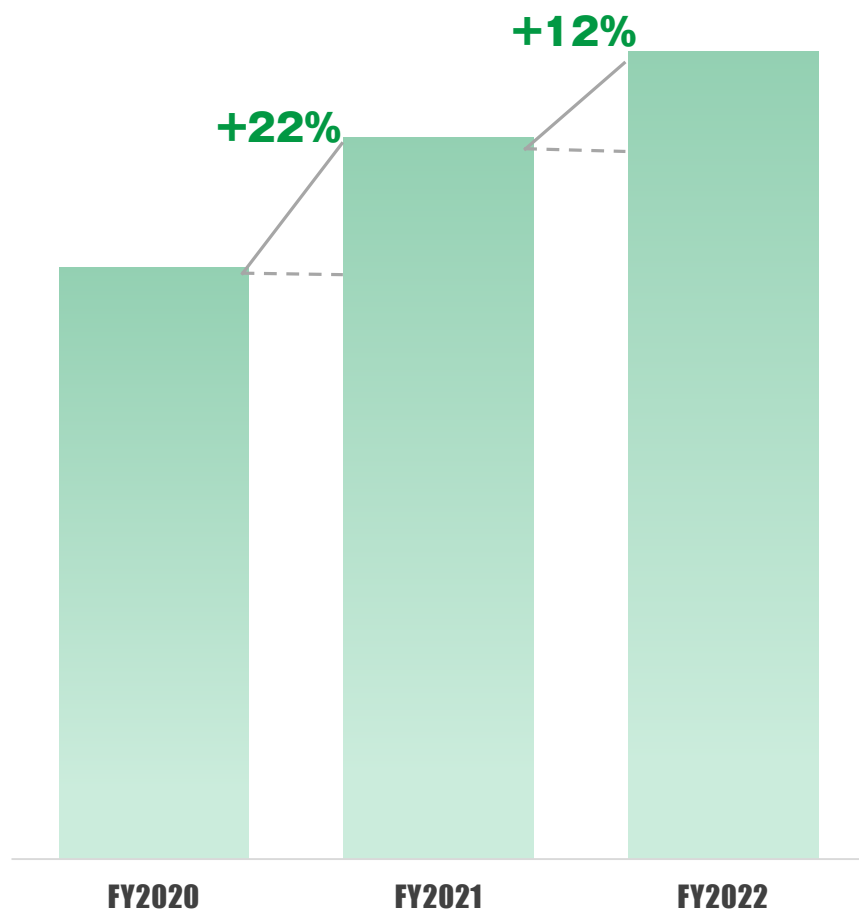
CCレッスン

資格Times

GPlusMedia

教育分野 Gakken2023の施策・取組推移

グローバル関連売上成長率



ベトナム・中東・中国で幼児向けコンテンツ／STEAM教材を展開

- ・ コロナ影響で当初予定よりも展開遅延
- ・ ベトナム、中東、中国を戦略地域とし、幼児教育やSTEAM教材を中心に展開を開始
- ・ 事業拡大に向けた現地ネットワークは構築済
ベトナム：教育スタートアップ企業、KiddiHub社と資本業務提携
トルコ：ODA事業を通じて構築したネットワークの活用
中国：教育大手、新東方社などとの業務提携



←ベトナム ハノイの幼稚園での幼児向けSTEAMコース

医療福祉分野 実績推移／当期見通し

単位：億円

		2021年9月期	2022年9月期	2023年9月期(見通し)	対前期実績
売上高		657.9	722.4	758.5	+36.2
事業別	高齢者住宅	274.3	323.7	352.3	+28.6
	認知症GH	331.5	341.0	346.3	+5.3
	子育て支援	52.1	57.6	60.0	+2.4

営業利益		30.4	31.5	35.1	+3.6
事業別	高齢者住宅	12.8	14.2	17.6	+3.4
	認知症GH	22.0	20.7	20.9	+0.2
	子育て支援	0.3	1.2	1.2	+0.0
	のれん	-4.6	-4.6	-4.6	+0.0

※小数点第2位未満は四捨五入のため、合計値が合わない箇所があります。

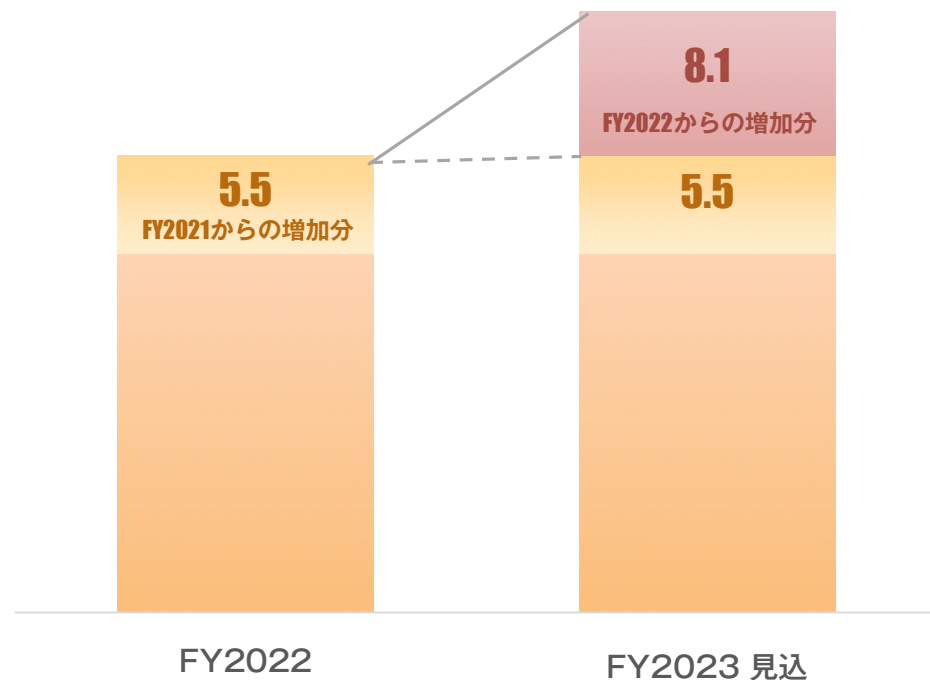
医療福祉分野 Gakken2023の施策・取組進捗

取組テーマ	主な重点施策	進捗	中間評価
人財	定着率向上と早期離職低減	高齢者住宅：離職率23.7%（目標20.0%） 認知症GH：離職率20.4%（目標21.0%）	△
	新規採用強化、養成事業の展開エリア拡大	介護士・保育士の養成アカデミーから、グループ内施設への誘導強化に取り組む。FY2022は135名に届かず	△
品質	DX / ICTによる効率化	介護記録電子化の全店導入について、導入率100%を達成	○
	子育て領域の幅広いサービス提供	子育て領域の新規事業は社内PJで検討中	△
	自立支援介護の普及	認知症GHで自立支援介護の導入に取り組み、導入率99.7%を達成	○
	入院しない、させない看護介護	入院率2.0%を目指すも、3.0%に留まる	△
開発	営業力の強化、出店スピード加速	FY2022の新規出店数は高齢者住宅 21事業所22棟（計画25）、認知症GH 11（計画16）、子育て支援 3（計画6）	△
	建物管理強化	プロパティマネジメントの全国展開を進め、順調に進捗	○
	まちづくり強化、海外展開	複合拠点をFY2021に1か所、FY2022に3カ所開設。海外は長期戦略に基づき子会社再編を実施	○

医療福祉分野 光熱費・建設費高騰への対応

光熱費増に関する対応

単位：億円



- ・ FY2023は、前期比で8.1億円増加見込み
一定額は入居者に協力金として価格転嫁
- ・ 差分については業務効率化により吸収

※既存店比較
※子育て支援施設は含みません。

建設費増に関する対応

単位：開発数

	FY2022		FY2023
	計画	実績	当期見通し
高齢者住宅	25	21事業所 (22棟)	16~22
認知症GH	16	11	12~15
子育て支援施設	6	3	4
合計	47	35	32~41

- ・ 新規開設計画ペースは維持、下限数は現在の確定数
- ・ 一定数を自社開発からM&Aにシフトし、開設数を積み増す

※子育て支援施設は保育園・学童施設・児童発達支援施設の合算です。
※記載の数値は、同期間の閉鎖数を差し引いていません。

2023年 9月期 見通し／重点施策

2023年 9月期 セグメント別 見通し

教育は社会人向け事業とD Xで収益力向上。医療福祉は新規開設・コスト・品質の好バランス堅持

単位：億円

セグメント		2022年9月期 実績		2023年9月期 見通し		増減（対前期）	
	事業	売上高	営業利益	売上	営業利益	売上高	営業利益
教育分野		781.7	44.3	798.1	49.8	+16.4	+5.6
	教室・塾	314.4	12.7	316.0	14.1	+1.6	+1.4
	出版コンテンツ	323.7	31.7	333.6	32.6	+9.9	+1.0
	園・学校	143.6	3.0	148.5	4.6	+4.9	+1.6
	のれん	—	-3.1	—	-1.5	—	+1.6
医療福祉分野		722.4	31.5	758.5	35.1	+36.2	+3.6
	高齢者住宅	323.7	14.2	352.3	17.6	+28.6	+3.4
	認知症グループホーム	341.0	20.7	346.3	20.9	+5.3	+0.2
	子育て支援	57.6	1.2	60.0	1.2	+2.4	+0.0
	のれん	—	-4.6	—	-4.6	—	+0.0
その他		56.3	8.1	63.3	4.1	+7.0	-4.0
調整額		—	-19.6	—	-21.9	—	-2.3
グループ合計		1,560.3	64.3	1,620.0	67.0	+59.7	+2.7

※単位未満は四捨五入のため、合計値が合わない箇所があります。

新会社「株式会社Gakken」スタート

Gakken2023で掲げた「新たなまなびの創造と多様な学習機会の創出」実現に向け、本年10月に学研プラス、学研教育みらい、学研メディカル秀潤社、学研出版サービスを統合。(株)Gakkenとして始動



<統合による期待効果>

■ 編集・デジタル部門集約により重点領域への取組加速

- － 「大人の学び事業部」新設、リカレント事業に本格参入
- － DX新事業の第1弾として、本年11月に電子まんがプラットフォーム「ガッコミ」をリリース

■ 販売チャネルの拡大

全国の園・学校営業拠点を活用した出版コンテンツのマルチ展開

■ 「園」「書店」「教室」と「SNS・WEB」を連動させた横断マーケティングの実行

2023年1月～新学期商戦に合わせた第1弾キャンペーンを予定

■ 組織統合による編集・営業・管理部門の最適化

初期再編および人員再配置による初年度の合理化効果は約1.4億円

2023年9月期 教育分野 重点施策

教室・塾を進化させるデジタルサービスが続々本格稼働！

学研教室オンライン／ことばパーク／Gakken ON AIR／バーチャル・スマート・キャンパス（ViSC）

少子化やコロナ影響等により会員数・生徒数が減少傾向にある教室・塾事業では、個々の教室・塾の商圏拡大が不可欠。最重要施策としてデジタルサービスの強化・差別化に注力する。

目玉はグループ塾を繋ぎ、子どもたちの学びを全方向からサポートする「バーチャル・スマート・キャンパス（ViSC）」構想。オンライン授業のに留まらず、電子図書ライブラリや自習室、交流スペースや職員室まで備え、「学びの場」をまるごとDX。リアルでの通塾が難しい遠隔地にまで商圏を拡大し、全国に塾ネットワークを持つ学研ならではの付加価値として他社との差別化を図る。

学研教室では慣れ親しんだ指導が自宅で受けられる「学研教室オンライン」やワーキングメモリを強化する「ことばパーク」の本格展開により、一層の学びやすさ、学ぶ楽しさを提供する。



※FAMcampusは、富士ソフト株式会社の登録商標です。

（イメージ図）



※ 学研教室オンライン



2023年9月期 医療福祉分野 重点施策

アクティブシニアからエンディングまで、切れ目のないサービスで高齢者に寄り添う

65歳以上の高齢者数^{*1}は、3,500万人を超えており、2042年にはピーク（3,900万人）を迎える予測。また75才以上の後期高齢者の全人口に占める割合^{*2}は増加を続け、2055年には25%を超える見込。お客様が「高齢者」として過ごす時間は長期化し、必要なサービスも多様化している。

医療福祉分野では市場拡大とお客様ニーズの多様化に対応し、既存の高齢者住宅事業と認知症グループホーム事業の周辺で、新規事業を加速。

健康維持・認知症予防、認知症介護、そしてライフエンディングへと、お客様とご家族のライフステージに寄り添いながら、心豊かなシニアライフを支える。



■学研ファミリー

- ・ライフエンディング事業（家族葬）
- ・きずなHDとの合併により
2022年10月3日設立



■健達（けんたつ）ねっと

- ・介護施設検索
- ・EC
- ・学びコンテンツ（健康維持・認知症予防）



■ライクス薬局

- ・処方箋受付
- ・施設やご自宅へのお薬のお届け（在宅医療）

*1参照：厚生労働省HP <https://www.mhlw.go.jp/>

*2参照：令和4年版高齢社会白書 <https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/index-w.html>

私たち学研グループは
すべての人が心ゆたかに生きることを願い
今日の感動・満足・安心と
明日への夢・希望を提供します

想像の先を、創造する



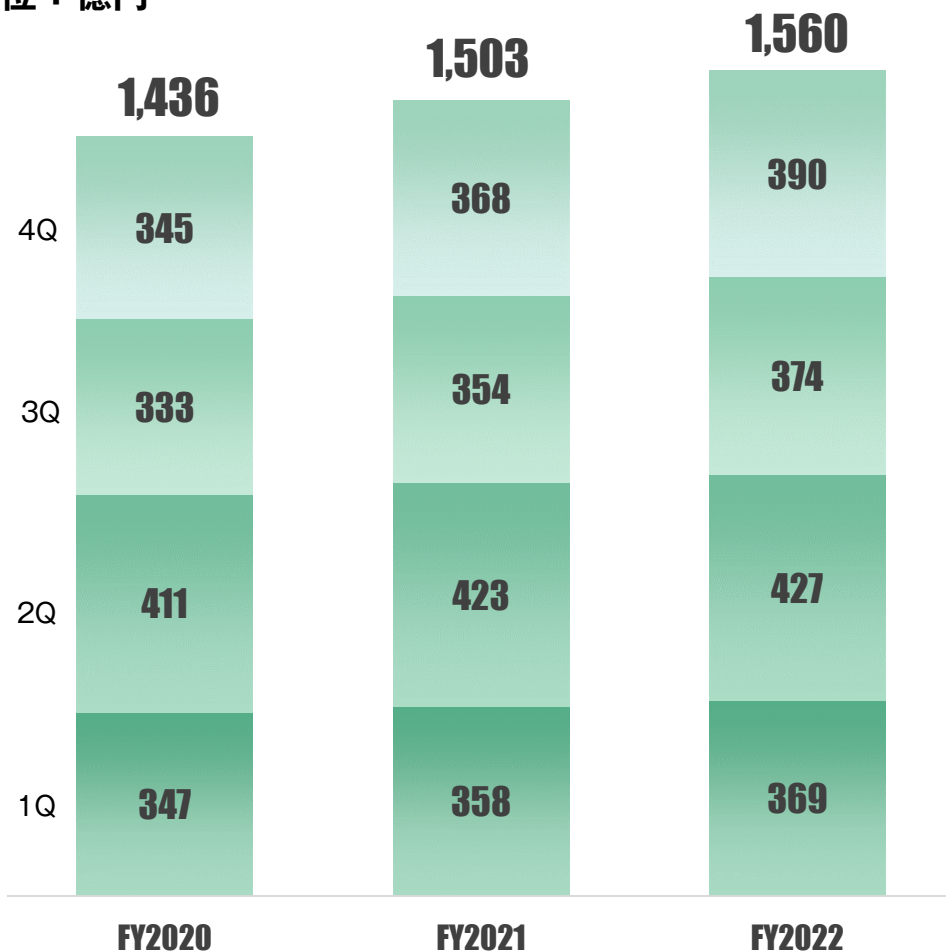
人のため、社会のために
まなび続ける
情熱とスピード感を持つ
個の力を集団の強さに
現状に満足しない

2022年9月期 決算補足資料

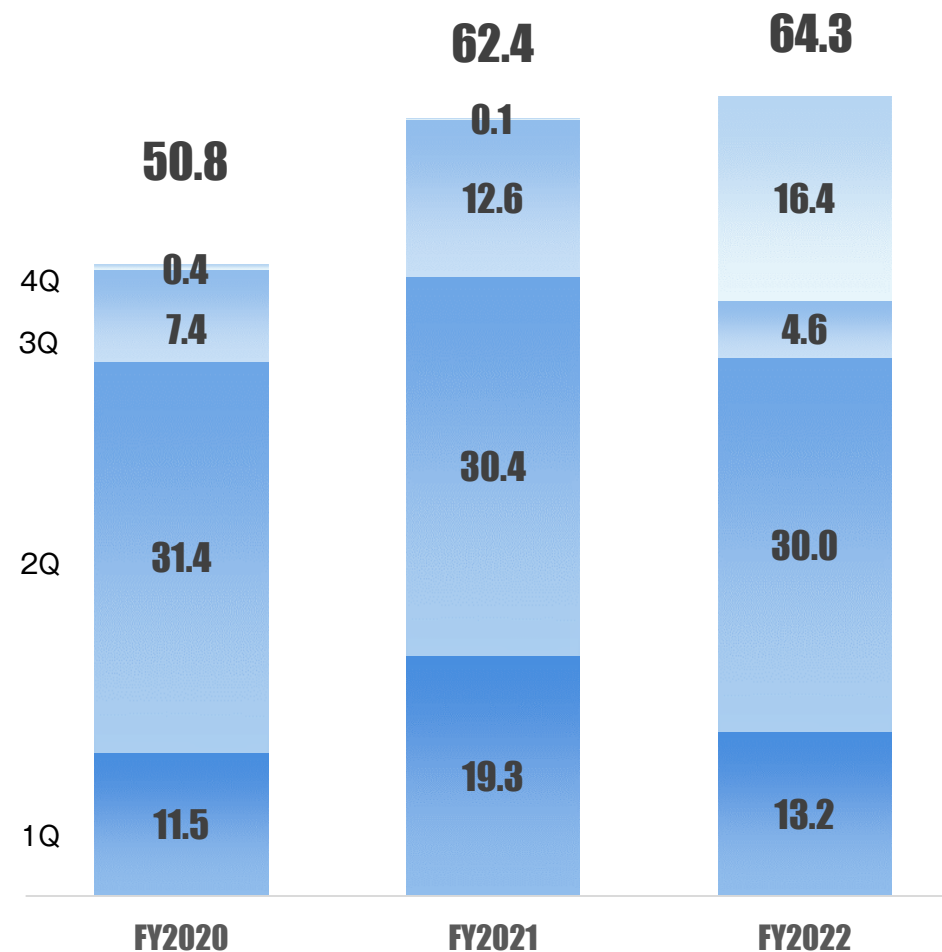
四半期毎 業績推移（直近3力年）

売上高

単位：億円

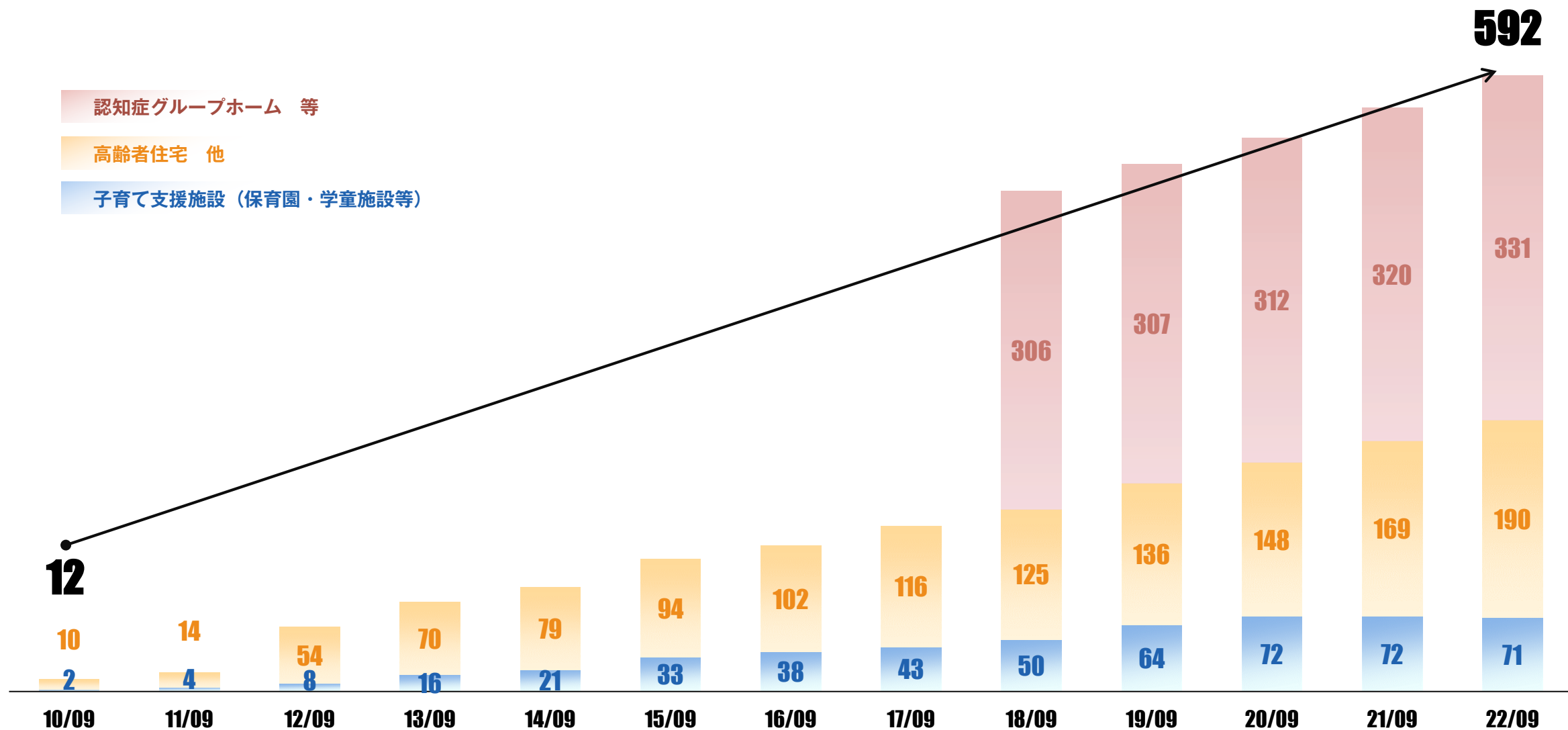


営業利益



※億円未満は四捨五入です。

医療福祉分野 拠点数



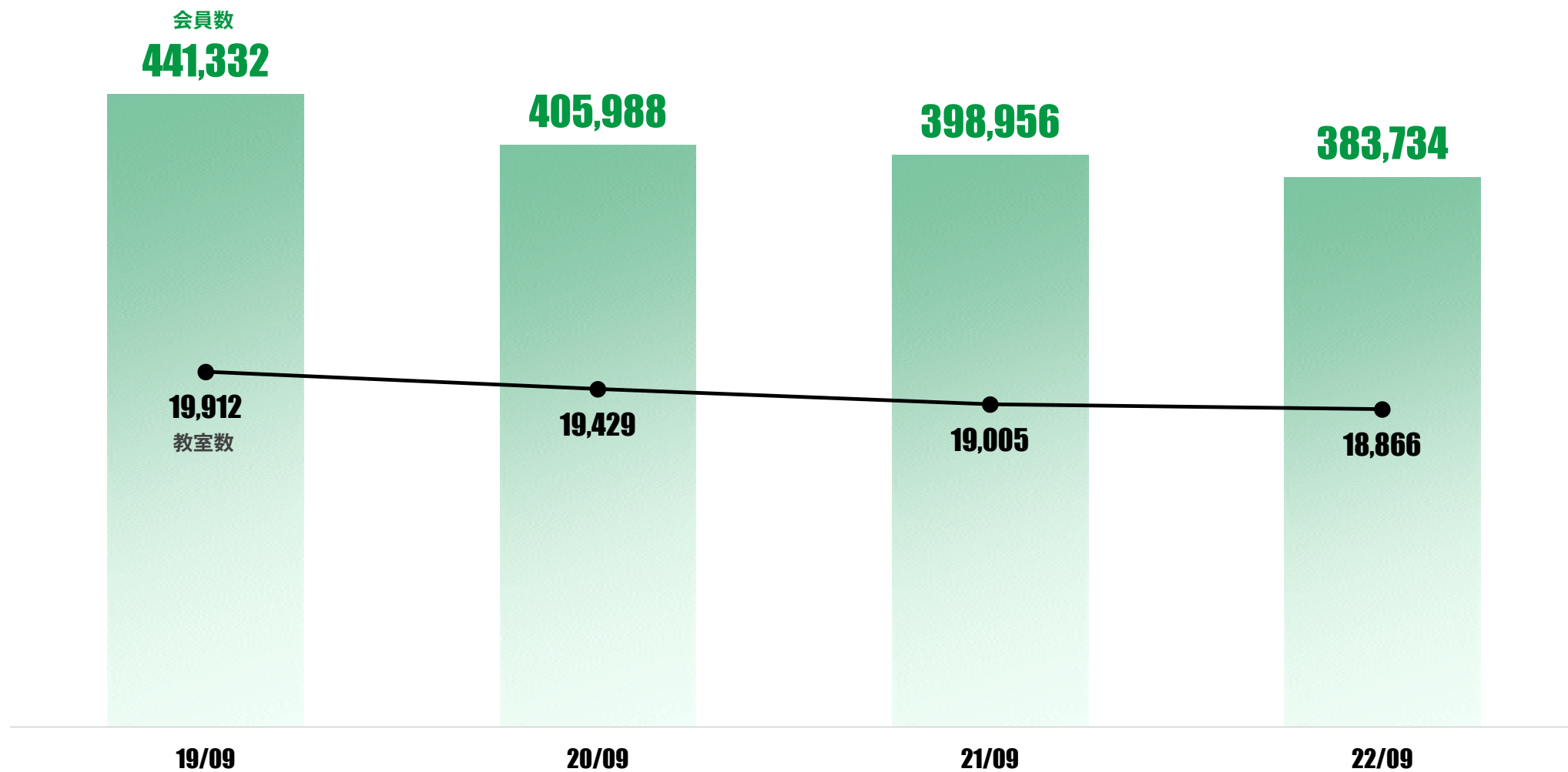
※記載の数値は新規開設数と閉鎖数の差し引きです。

医療福祉分野 入居率・充足率

		20/03	20/09	21/03	21/09	22/03	22/09
高齢者住宅	総戸数	6,898	7,182	7,717	8,308	9,037	9,665
	入居数	6,289	6,600	6,985	7,505	8,345	9,073
	入居率	91.2%	91.9%	90.5%	90.3%	92.3%	93.9%
認知症グループホーム	居室数	5,192	5,246	5,246	5,372	5,444	5,570
	入居率	98.0%	98.0%	98.0%	97.8%	97.6%	97.7%
子育て支援施設	定員数	2,497	2,788	2,788	2,661	2,664	2,721
	園児数	2,107	2,381	2,389	2,443	2,441	2,505
	充足率	84.4%	85.4%	85.7%	91.8%	91.6%	92.1%

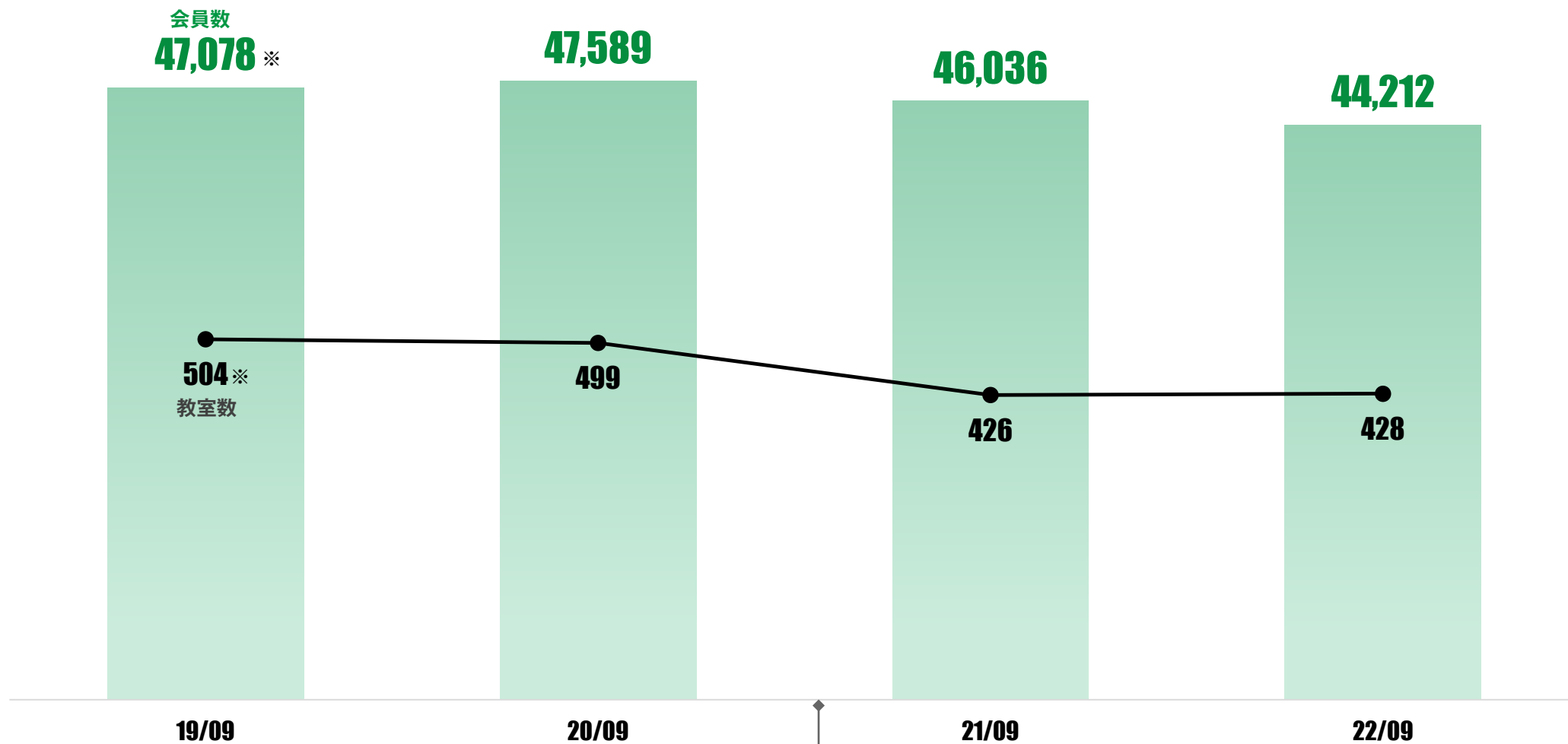
※認知症グループホームは、運営事業会社のメディカル・ケア・サービスが前期に決算期を変更しました。
これに伴い2021年3月以前の実績は、9月が「8月」、3月が「2月」をそれぞれ読み替えております。

教育分野 教室 会員数・教室数



※会員数、教室数は学研教室と幼児教室の合算です。事業譲受に伴い、2020年9月以降には小学館アカデミー、2021年7月以降にはめばえ教室の実績を含みます。

教育分野 塾 会員数・教室数



※2021年2月に学研アイズ、同3月にSIGN-1をそれぞれ収斂しました。

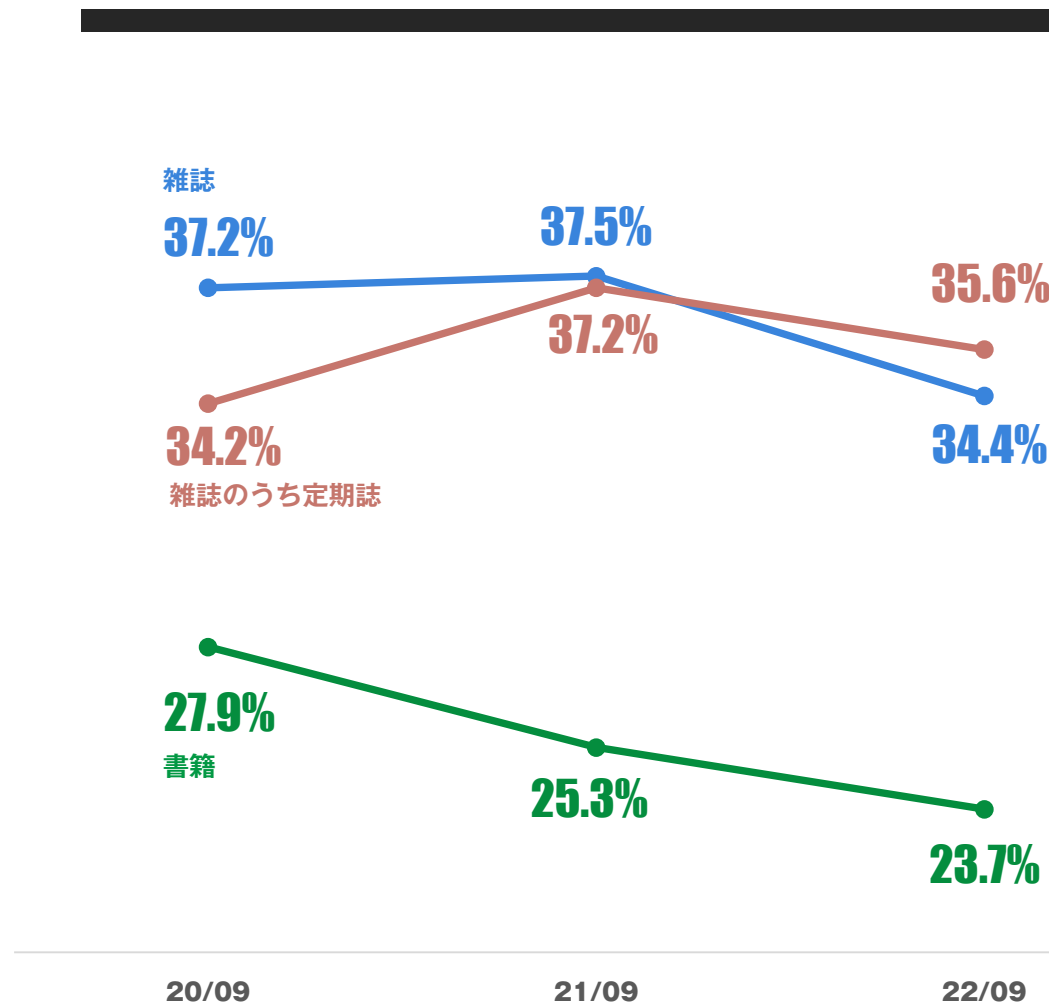
※2019年9月の数値について、過去の開示資料に誤りがあり、修正いたしました。2020年、2021年9月の数値に変更はありません。

教育分野 出版 書籍新刊点数／返品率

書籍新刊点数※1

	20/09	21/09	22/09
児童書	191	192	194
学習参考書	223	172	178
実用書※2	130	160※3	187
ムック	62	46	51
その他書籍	142	87	123
合計	748	657	733

返品率※1



※1 書籍（雑誌は含まず）発行点数及び返品率に、学研メディカル秀潤社、文理の数値は含みません。

※2 当期より「実用書」を「その他書籍」から除いて記載しています。関連して2020年9月期、2021年9月期の「その他書籍」「実用書」の発刊点数も遡及・修正しました。

※3 地球の歩き方社の実用書新刊点数について：2021年グループイン当初の発行所・発売元変更に伴う新刊発刊は、同年9月期の実用書新刊点数から差し引いています。

教育分野 教科書発行スケジュール

△ 検定：文部科学省の調査（教科書としての適正性） ● 採択：所管の教育委員会や校長による教科書の決定 ◎ 使用開始：各学校に供給し、児童生徒へ

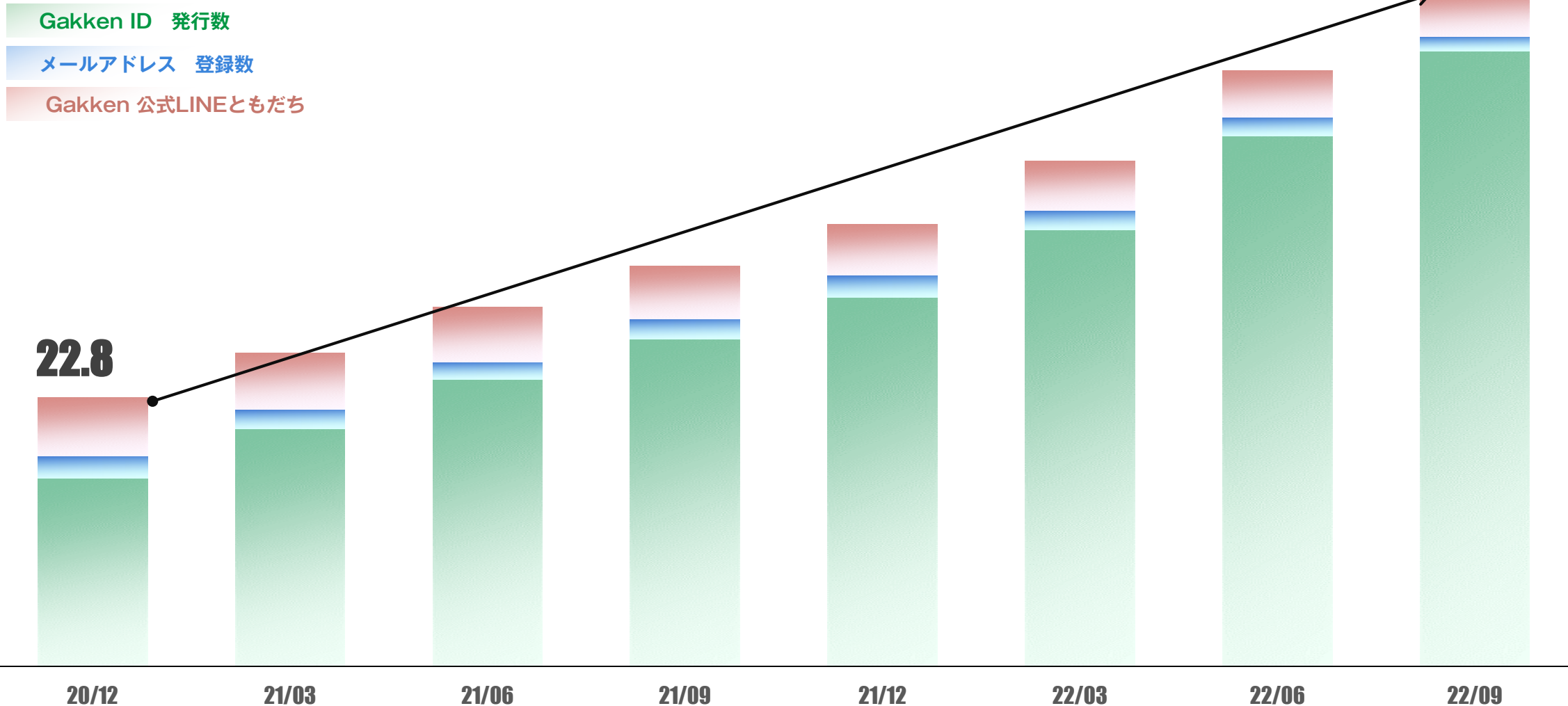
	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
小学 保健	△	●	◎		△	●	◎	
中学 保体		△	●	◎		△	●	◎
小学 道徳	◎ △	●	◎		△	●	◎	
中学 道徳	●	◎ △	●	◎		△	●	◎

※教師用指導書の売上は「◎使用開始」年度に集中します。

DX戦略 グループ・ダイレクト・タッチポイントの推移

個別サービス毎のID取得は順調。サービス間の連携を進め、顧客LTV向上を目指す

単位：万件



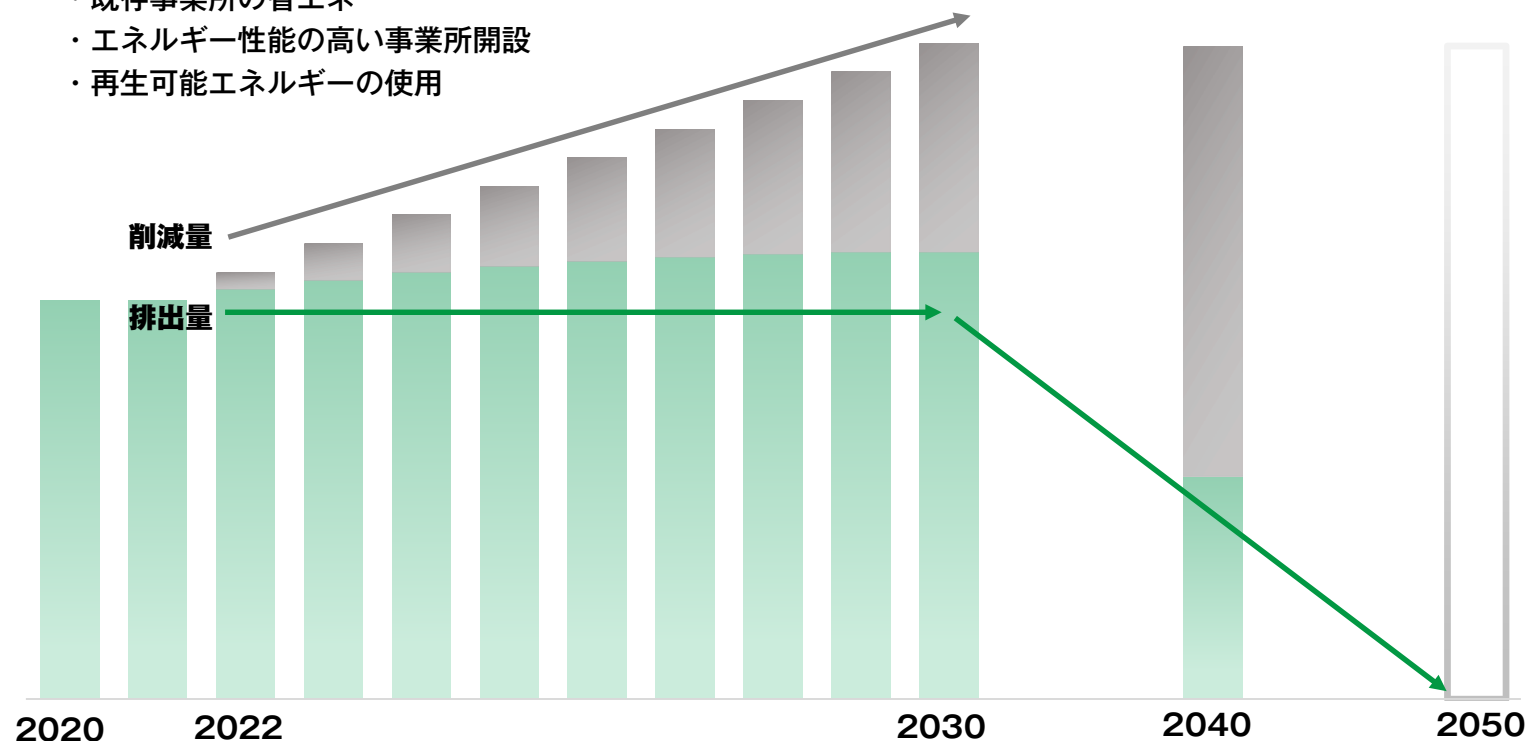
サステナビリティ推進取組

- ・ 2021年10月、代表取締役を委員長とするサステナビリティ委員会を設置
- ・ TCFD賛同表明とともに脱炭素社会への移行に向けた取り組みを開始
- ・ 削減目標を策定し、2050年までにカーボンニュートラル実現に向けて対策を強化

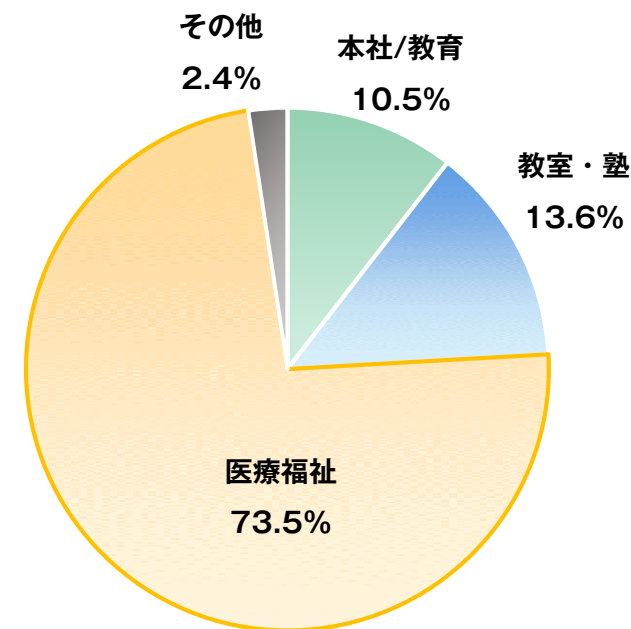
■温室効果ガス排出量推移と削減計画イメージ

<排出削減施策>

- ・ 既存事業所の省エネ
- ・ エネルギー性能の高い事業所開設
- ・ 再生可能エネルギーの使用



■事業別温室効果ガス排出量（スコープ1-2）



FY2021 温室効果ガス排出総量
35,975t-CO2

Gakken

Gakken Group hopes that everyone has fulfilling lives.
To this end, we provide inspiration, satisfaction, safety for today,
and dreams and hopes for tomorrow.